



企画：中村 康彦（医療法人社団愛友会上尾中央総合病院理事長）

近年、経済環境の変化や市場競争の激化により、多くの病院が厳しい経営状況に直面している。特に、慢性的な赤字に苦しむ病院にとって、事業の継続や成長のためには、抜本的な経営改革が不可欠である。本特集では、赤字経営からの脱却を目指し、経営資源の最適化、コスト削減、収益向上のための具体策を検討し、実際に経営改善を成し遂げた病院の成功事例を紹介し、持続可能な経営体制を確立するためのヒントを探りたい。経営難に直面する病院が、一歩踏み出すための実践的な指針をそれぞれの著者に実例とともに提示いただいたのでぜひ参考にしていきたい。

本特集の論旨が分かる Point 一覧

p.918 当院は、地域および国に求められる医療ニーズに応えることを意識して病院運営を行ってきた。また、経営的な側面に偏ることなく、医療の質の側面からも自院や地域のデータを評価、活用し、この地域における自院の適切な医療提供の在り方を追求してきた。このことが、結果として良好な病院運営につながったと思われる。

(風晴 俊之・美原 盤)

p.926 医療職は他の業種と比べ組織に対する帰属意識が極めて少ない。大川原脳神経外科病院はその最たるものである。この過程において、人材の定着や育成、新規雇用の創出がいかに困難であるかについて、事実に基づいた分析を物語調で記述した。

(大川原 淳)

p.932 赤字脱却のために、収入と支出を中長期的観点で見直した。「新たな地域医療構想」に対応するために、回復期リハビリテーション専門病院に転換して、入院、外来、訪問のリハビリテーション強化策を行った。支出に関してもワークシェアとシェアリーダーシップを進め残業や会議の見直しを行い、増員することなく管理した。地域貢献をすることで地域の方々の信頼を得ることが、中長期的に経営を安定させるには重要であることを強調したい。

(平田 好文)

p.938 民間の急性期中規模病院として地域医療に貢献するためには、健全経営を維持しなければならない。昨今の物価高騰の影響を受け、経営状況が悪化する中で保険医療機関では効率化は必須である。そこでは地域医療を守るという職員の使命感と職員間の連帯感の維持が重要となる。民間病院における医療の質の向上と経営の努力は、医療政策の適正化とともに、保険料および税金を納めている国民の理解を得るためにますます重要となっている。

(諸井 雅男)